



# ADRC Highlights

Asian Disaster Reduction Center Monthly News

Vol. 323  
February  
2020

## トピックス

### 国際会議への参加

▶ 日中韓協働によるフォーラム「Northeast Asia Forum on Capacity Development of Technology for Disaster Risk Reduction (DRR)」

▶ 「人材育成及び災害のための宇宙データ技術の活用」に関するシンポジウム

### ADRC客員研究員レポート

▶ ベーダ・ニディ・カナル (ネパール)

▶ ニマ・ツェリン (ブータン)

### ADRCインターンレポート

松下拓真 (神戸大学)

## Asian Disaster Reduction Center アジア防災センター

〒651-0073  
神戸市中央区脇浜海岸通  
1-5-2 東館5F

Tel: 078-262-5540  
Fax: 078-262-5546  
editor@adrc.asia  
http://www.adrc.asia

© ADRC 2020

## ●国際会議への参加

### 日中韓協働によるフォーラム「Northeast Asia Forum on Capacity Development of Technology for Disaster Risk Reduction (DRR)」

アジア防災センター (ADRC) は、2019年12月16日と17日に韓国のインチョンで開催された、日中韓協働によるフォーラム「Northeast Asia Forum on Capacity Development of Technology for Disaster Risk Reduction (DRR)」に出席しました。本フォーラムにおいては、主催機関である日中韓三国協力事務局およびUNDRR、各国の防災担当機関や大学などの研究者が参加しました。ADRCとアジア工科大学は、日本が有する防災の先進的事例を示すセッション2において登壇し、ADRCの客員研究員プログラムやタウンウォッチングプログラム、センチネルアジアの活動について紹介し、日中韓におけるハザードマップ整備に関する情報共有について説明し、日中韓の連携の必要性について提案しました。



### 「人材育成及び災害のための宇宙データ技術の活用」に関するシンポジウム

ADRCは、2020年1月9日にインドネシア (バリ) のウダヤナ大学で開催された、防災分野における宇宙技術の利活用をテーマとした「人材育成及び災害のための宇宙データ技術の活用」に関するシンポジウムに出席しました。

このシンポジウムには、主催機関である山口大学とウダヤナ大学の関係者、現地の防災担当機関、東京大学、防災科学技術研究所などから約30名の関係者が参加しました。

ADRCは、センチネルアジアの概要や近年の緊急観測に関する報告を行い、災害時における要請の方法や、センチネルアジアへの参加方法などについて質問を受けました。



**●ADRC客員研究員レポート****ベータ・ニディ・カナル（ネパール）**

私は、ネパールから来ましたベータ・ニディ・カナルです。私は、大学院で公共経営と社会学を専攻しました。私はネパール内務省の次官、中央政府の国家危機管理センター長、及び郡レベルの長官を務めています。国レベルでは、災害予防及び対応を担当しています。災害・紛争管理課のもと、ネパールの防災に関わる様々な法的枠組や政策、制度の構築に貢献しました。そして、これらを利用する現場の区レベルでは、これら政策が上手く機能しない現状を目の当たりにしました。

ネパールは、様々な災害ハザードにさらされています。このようなハザードは国中に多くの災害を生み出しています。これらの災害事象は毎年、多くの人命を奪い、多額の経済損失をもたらしています。地理及び地質学的な位置、気候変動による影響が災害の発生に大きな影響を与えています。急速かつ無計画な都市化、環境の劣化、自然や災害種の多様性、そして災害リスク管理の不適切な理解といった要因により、この国における災害リスクをさらに高めています。

2015年に新しい憲法が公布され、連邦制システムの採用が始まりました。この新しいシステムにより、防災法2017、防災国家政策2018、防災戦略行動計画2018-2030といった新しい防災に関する法令や政策が承認されました。これらの政策や計画は、政府の全3レベルにおいて、国中でローカリゼーションされながら実施されています。これら政策の適応性については、現在試験が進められており、結果はまだ出ていません。

ネパールにおける防災の様々な面に対処するために、政策やガイドラインは依然、様々なレベルで構築中です。ギャップを減らすこと、新しい政策要求、政策調整を指示すること、あるいは政策策定に影響を与えることといったことは、いつもやりがいのある仕事です。これには長い経験や知識が必要で、同時にシステムにおける構造的、法的、制度的改編のために新しいニーズを証明するための証拠が必要です。日本は、近代的なアプローチ、そして手段で効果的な防災を行っています。日本のような国によって得られた知識や経験は、ネパールの防災力を高めるために生かせることでしょう。

私は、ADRC客員研究員プログラムを通じ、政策面や現場レベルでの防災の優良事例について学ぶ良い機会になると信じています。この体験は、今後私と私の組織にとって貴重なものとなるでしょう。このような貴重な機会を与えてくれた日本政府、ADRC、そしてネパール政府に感謝いたします。

**ニマ・ツェリン（ブータン）**

私はブータンから来ましたニマ・ツェリンと申します。ダガナ県の防災担当官です。ブータン内務文化省地方政府部の下、2005年5月にサムツェ県委員会の事務局長としてキャリアをスタートしました。2013年にRoyal Institute of Managementで公共経営修士を取得しました。

私の母国であるブータンは、ヒマラヤ地域にある内陸国で、人口密度の高い国々、北は中国、南はインドに囲まれています。国内に20の県があり、205の地区があり、そのほとんどは、森林に囲まれ、自然が豊かで多種多様な文化遺産があります。

ブータンは、世界で最も地震活動が活発な地域に位置しています。過去の記録では、これまでに7-8回の地震が発生し、多くの農村家屋や学校、政府関連の建物が甚大な被害を受けました。地震の他に、モンスーン時期（6月～8月）における氷河湖決壊洪水（GLOF）、地すべり、鉄砲水や、暴

## 続き

風、火事、森林火災、雹害といった災害が農作物に影響を与えています。この国における防災は、まだ進化を遂げている最中で、人材育成のための予算的制約や人材不足、様々な組織との連携、技術不足などが課題となっています。

ADRC客員研究員プログラムは、世界や特に日本における防災の優良事例について学んだり、経験したりする良い機会を与えてくれています。日本に滞在する3ヶ月間、日本の防災や防災システムに関する多くのプログラムから学ぶことにより、自国の県や地方レベルにおける防災非常事態計画の発展に貢献できると思います。このような機会を与えてくれたADRC、そして日本政府とブータン政府や、VRプログラムへの参加を支援してくれた県知事であるPhintsho Choeden氏に感謝いたします。



## ●ADRCインターンレポート

### 松下拓真（神戸大学）

はじめまして。私は神戸大学大学院国際協力研究科に所属している博士前期課程1年の松下拓真と申します。現在、当研究科では国際学プログラムを専攻しており、主に発展途上国での防災研究を実施しています。特に、防災の中でも地域住民の主体性を向上の促進、内発的な防災活動への取り組み実践を図るといったコミュニティ防災の研究をしています。

そこで、コミュニティ防災の知見や議論をすることで、自らの能力向上にもつなげたいと思い、ADRCでのインターンシップを希望しました。実際に、ADRCでは「防コミ」といった地域住民向けのタウンウォッチングやワークショップを通じた「災害に強靱な地域社会づくり」の実践を最先端で取り組んでいること、つまりは私の研究に強く寄与できると思っています。そのため、指導教官の伝手を借りて、ADRCのインターンシップに2020年2月2日から12日の10日間、勤務させていただきました。

今回のインターンシップでは、JICA関西の「美カエル大キャラバン」への参加、「干ばつ対策」に関する講義の受講、ADRCメンバー国の防災情報収集を通じたカントリーレポートの更新作業、タウンウォッチングへの参加等、多彩なイベントを経験させていただきました。

実際の作業のほとんどが、英語を使用しなければならず、内容もかなり専門的で苦勞した一面があります。しかし、当センターに所属している研究員や海外からの客員研究員の方々とお話しできたことで、自分の防災に関する知見は広がったうえに、ネットワークも広げることができました。この経験は、多彩な国際防災の機関である、ADRCでしかできなかったことです。10日間と短い期間でしたが、非常に濃密で貴重な機会となりました。神戸大学及びADRCの関係者の皆様、本当にありがとうございます。



### 問い合わせ・配信申し込み

このニュースレターに対するお問い合わせ、またEメールによる配信をご希望の方は  
editor@adrc.asia までEメールをお寄せください。